

こんな風にして愈々完成させる。自分達丈で見てるる

唱歌遊戯

第九週

唱歌 一回

復習

遊戯 三回

ものまね(記事参照)

一回毎にリーダーが代るこまによつて、子供達は随分變つた行動をするので、興味が相當長い時間つゞいて面白い。又そのリーダーになつた子供によつて模倣性の強い子供、創作力の強い子供、さいふ様な方面も種々わかつて面白い結果になる。

お友達(記事参照)

二人で手をこり、自由にさび廻るこの遊戯を大さう好む。お友達さいふ名の様に、元氣旺盛な男兒も、お友達さあまり交渉出来ない内氣な子供も、皆この可愛い遊戯に

のも惜しい氣持がしたら、他の組を御案内して見て戴く。

ひき入れられるこまによつて何まなくお互同志の氣持よさを感じるらしい。

第十週

唱歌 二回

進軍(記事参照)

元氣よく兵隊さんが進軍する時の氣持を出してうたふ。トットトットトット……さいふころは無理に歌詞ばかりを覚えさせ様とするさむづかしいので、曲に合はせて何回もラッパの調子を口づさむでるる中に、覺えられる様になる。

遊戯 二回

進軍(記事参照)

勇ましく、そして何まなく規律正しいさいつた様なスキリした氣分を出してしたいものである。はじめの踵、

をつけて出したりひつこめたりするところは殊にテキバキミ兵隊さんの気分を出してし度い。最後のスキップも長いのでみだれ勝ちであるが、前に進むこみより上に高く軽く喜んで、気分を出したいものである。

第十一週

唱歌 一回

水鐵砲(幼稚園唱歌)

ミヅヲタクサンクンデキテ：ミ古くからある唱歌だが
簡單で子供によろこばれる歌である。一二三四シュツシ
ユツシュツのまところは水のはしり出る様に特に力を入れて
て元氣にうたふ。

遊戲 三回

水鐵砲

よく知られてゐる遊戲なので振を記すのは省いたが、最後に水をかける動作をするところは、皆鐵砲の先を同じ方向に向けて、お窓の外にかけませう、さか、誰さんにかけませう、こいふ様にめあてのものをきめてするこ一層興味が出る。

お池(記事参照)

これも子供が各々好きな變つた動作をするので無理に制限されるこみなしに、面白く出来るものである。

第十二週

唱歌 二回

ミヅアソビ(エホンシャウカ)

涼しい木蔭にバケツを持ち出して、先生ミ作つた水鐵砲に水を入れてためてみるのも、暑いこの頃では先生にも子供にも楽しい一まきである。笹舟を作つてお池に浮かしてみるのも、汗を一ぱい出して力一ぱい遊んだ後の木蔭での先づ一息をいつたまころである。こうした気分を味はひ乍ら、このうたをうたふのも、本當にこの氣持をよくうたつて楽しむこみが出来るであらう。

遊戲 三回

ミヅアソビ(記事参照)

水を入れたり、かけたりする動作は自分達が實際にする様にすればよいので、型にはまつてしない方がよい。

ものまね

The image shows a musical score for a piece titled 'ものまね' (Imitation). The score is written in 2/4 time and consists of four systems of piano accompaniment. Each system has a treble and bass staff. The melody is primarily in the treble clef, with a steady eighth-note accompaniment in the bass. The key signature has one sharp (F#), and the piece concludes with a double bar line.

ものまね 三浦ヒロ氏振付
コードモノ遊ビ

準備 圓形を作る

1、第一小節より第八小節第一音まで
圓周にそつて元氣に行進する。

第七小節の終る頃に先生が皆に向
ひ、兎、象、お爺さん、兵隊さん、
おすもうさん……等何か真似をする
ものゝ名を一つ云ふ。

2、第八小節第二音よりおはりまで
皆は先生の云つたものゝまねをし乍
ら、やはり圓周にそつて行く。

そしてすぐに又第一小節から第八小
節まで真似をやめて元氣に行進す
る、そして次に又先生の云つたもの
の真似をする、こゝして何回もくり
かへして行ふ。

少し馴れて來たならば、先生は曲の

お友達



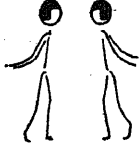
1.
2.
3.



4.



5.



はじめに「誰々さん」を子供の名を云ふ、するにその云はれた子供は自分の好きなものゝ真似をする、他の子供はその子供のしたものの真似をする。一回終るに又次の曲のはじめに違つた子供の名を指す、今度はその子供が好きなものゝ真似をする、他の子供はその子供の真似をする、こうして一回毎に違ふ子供がリーダーとなり何回もつゞけられる。

お友達

準備 二人つゝ組み手を體の前につなぎ合はせる。自由な方向に進む。

1 第一小節より第四小節まで

2 二人手をつなぎ自由な方向にスキップで行く。第四小節で止る。

3 第五小節

4 二人手はまだはなさずつないだまゝで向ひ合ひ、お互の顔を見て、頭を右に傾ける。

5 第六小節

6 第五小節と同じ形にて頭を左に傾ける。

7 第七小節

8 二人向ひ合つたまゝの位置にて手を離し、拍手二回。

9 第八小節

10 手を後にのばし、右足を一步後にひく、爪先をつけるだけで體重は前の足にかゝる。

お友達



6 第九小節より第十二小節まで

1 に同じ。

7 第十三小節

2 に同じ。

8 第十四小節

3 に同じ。

9 第十五小節

4 に同じ。

10 第十六小節

5 に同じ

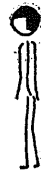
以上は何回でもくりかへして行ふ。

進軍

トトト
トトト
テテテ
タタタ
タタタ



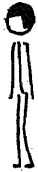
トトト
トトト
テテテ
タタタ
タタタ



タ
タ
タ
タ
タ
タ
タ
タ
タ
タ



タ
タ
タ
タ
タ
タ



進軍 戸倉ハル氏振付
大正幼年唱歌集

準備 圓形を作り圓周に沿つた方向に向く

一 トツトトツトツトツタツタツタテトタ

イ トツト

右足を一步前に出し踵だけつける、ミ同時に両手を軽く握り、左手を斜前に右手を斜後にのばす。

ロ トツト

右足を元に戻し。兩足ミも揃へる、ミ同時に手も元に戻す。

ハ タツタ

左足を一步前に踵だけつけて出す、ミ同時にやはり手を軽く握り右手を斜前に、左手を斜後にのばす。

ニ タ

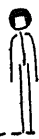
ウツシク



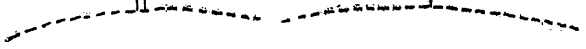
ハニネム



イ



シマサイハトオノハッラ



左足元に戻し、手も元に戻す。

テトテト

イ、ロ、に同じ。

タ

ハ、ニ、に同じ。

タツタタタツタトテトトタツタタタツタタ

タツタタタツタは イ、ロ、に同じ。

トテトト はハ、ニ、に同じ。

タツタタタツタはイ、ロ、に同じ。

タはハ、ニ、に同じ。

ラッパノオトハイサマシイ

圓周に沿ひ元氣に行進する。そして最後に圓の中心に向き足を揃へて止る。

テセガラキラキ



ルベニサ



ニテテオ



テセサカピカピ



ムネニハ

中心に向つたまゝ、兩掌を肘ヒデをはり胸にあてる。この時五指を出来るだけひろげる。

クンシャウ

兩手を上にのばし、掌は五指をひろげたまゝ前にむける。

ヒカヒカサセテ

上にのばした兩手の掌を前、後、前、後、ミ動かす。やはり五指はひろげたまゝ。

オテテニ

左手を左腰のミこころに握り、サーベルを持つ様子を同時に右手はその左腰のサー

ベルの柄ツカにかける様子をす。

サーベル

右手でサーベルを抜き右上に高く上げる。

キラキラサセテ

タトテトテ タッダッダトットトトット
 ダトタトテ トタデトタッダタッダ



ヨルクデマウオウァシイタラカトア



上に高くあげた右手を握つたまゝ、前後、前後、後、前、後、ミ、動かしてサーベルをキラ
 キラさせる様子をする。

アトカラタイシャウオウマデクルヨ

右手高くサーベルを持つたまゝ元氣に歩く。

トツトトトツトツタツタテトテトタ

タツタタツタトテタトテトタトタ

両手を前にもやし軽く握り、手綱を持つて軽いスキップで行く。

お池 自由表現

圓形を作り、踞み、その中をお池とし、數人の子供が曲に合はせて蛙になつたり、あ
 ひるになつたり、種々池の中をすきなものになりその様子をして、さんだり、はねた
 り、泳いだりする。これは全くその子供の表現にまかせる。そして適宜に圓周の者ミ
 交代する。

ミツアソビ

一シュツ シュツ シュツ シュツ ミツ ツ チ ッ バウ
ニスー スー スー スー オ モ ャ フ ネ

アガッテ オハ ナシ ル ウ エ キ ニ オ チ ル
ホ カケ テ ハ シ ル ミ ツ キ テ ハ シ ル

タカ カセ ク ア ガ ッ テ マ マ タ オ ケ ル
カ セ カ ア タ ル ト マ タ ハ シ ル

ミツアソビ 戸倉ハル氏振付
エンホンシヤウカ

準備、圓形を作り内方を向く。

シュツシュツシュツシュツツツボウ

踞むで圓の中心を向き、水鐵砲に水を入れる様子をす。左手を軽く握り鐵砲の下を持ち右手をやはり握り、柄を持ち、前後に動かして水を入れる。

アガツテオチルウエキニオチル

立つて、水を方々にかける様子をする。

タカク

中心を向いたまゝ兩手を上にのばす。

アガツテ

兩手を下におろす。

マタオチ

タカクの動作と同じ。

ル

アガツテと同じ。

スツスツスオモチャブネ

圓周に沿つて少し屈み腰で歩く、手は前にのばし掌を合はせて肘を曲げたりのはしたりして舟が走る様子をしばらく歩く。

ホカケテ

圓周に沿つてこきざみに走る。手は上にのばし掌を合はせて帆の様にする。

談話

第九週

三匹の熊

この年齢に最も相應しい代表的童話で、いぎりすの佳作。物の大きさの比較が可愛らしく語り運ばれてゐる。

兩手で大中小の大きさをあらはし乍ら話すのは勿論であるが、この話の性質上、繪で説明する方法をこる事もある。この繪本は、丸善から買ったものを使つてゐる。洋書に云つても説明はごく簡單なので、大ていの保姆さんなら、

ハシル

圓周に沿つて走る、手は下におろす。

ミツキツテハシル

ホカケテハシルと同じ。

カゼガアタルトマタハシル

手を上にのばし帆を作つたまゝ、圓周に沿つてずつこ走つて行く。

こんなやさしい英語は何でもない。序ながら、繪本について一言。幼児の繪本も、いゝものが追々出來てゐるけれど、一枚の面の中にゴチャ／＼と説明畫のはいつてゐるのは感じも悪いし、混雜もする。色彩を鮮明にして、素淡な繪本を見せたい。この點、残念ながら外國の物には敵はない。クリスマス前には丸善に幼児向きのいゝものを澤山こり寄せてゐるので、行つて見るに私達の勉強にもなる。

舌切雀